

第3部 変わりゆくみち 近くなるまち — 明治から昭和へ —



ないてくりようにほんめいしよす え
『内國旅行日本名所圖繪第5巻』
上田 維曉編 青木嵩山堂
明治 22(1889)

江戸が「東京」と改められ、明治時代が幕を開けます。廃藩置県や学制公布など、日本の仕組みが大きく変わっていく一方で、学術・文化もめざましい発展を遂げました。明治から大正、昭和へと時代が移りゆく中で、旅の在り方やまちの様子も、こうした変化に大きく影響を受けることになります。



なるこす え
『鳴子圖繪』
山本晃著 鳴子温泉旅館組合事務所
大正 13(1924)

第4部 旅にしあれば、よりみちも楽し

第4部では当館所蔵の絵葉書で、なつかしい道や街の風景をご覧ください。戦前の「仙臺名所」「仙臺近郊 秋保温泉繪葉書」、昭和3年(1928)の「東北産業博覽會」絵葉書などを展示します。

通いなれた道、むかし通った道、旅した街並み、あらためて目にする街角、鮮やかに思い出す風景をご覧ください。



おおはし
『大橋』

せんたいめいしよ
『仙臺名所』[戦前]



ばしょうのつじ
『芭蕉の辻』

■期 間 平成25年3月1日(金)から平成25年6月30日(日)まで ■場 所 宮城県図書館 2 階 展示室
■時 間 図書館開館日の午前 9 時から午後 5 時まで ■お問合わせ先 宮城県図書館調査班 TEL 022-377-8499

図 書 館 a r o u n d t h e み や ぎ

◆シリーズ第36回 南三陸町図書館

南三陸町図書館館長 及川 庄弥

震災で流失した南三陸町図書館再開までの歩み

南三陸町図書館は兼務の館長他3名の職員体制で、蔵書も3万冊を超え、平成23年度には、施設設備も充実した図書館として歩みだすことになっておりました。3月11日の震災により、海沿いにあった南三陸町図書館は、津波に一瞬に飲み込まれ、なくなり、館長が帰らぬ人となりました。震災当初は浸水していて、あった場所さえわかりませんでした。

避難所暮らしの時、体育館入口の階段の外灯下で、子供たちが本を読んでいた。どうにか図書館を再開できないかと考えていたところ、全国より支援をいただき、何とか図書館用プレハブを設置して、平成23年10月5日に蔵書数3千冊で再開することができました。

更に11月からは移動図書館車を隣町の仮設住宅にも運行し、12月からは土日も開館しました。

24年7月には歌津コミュニティ図書館魚竜がオープンしました。この施設は仮設住宅の住民が気軽に来て、本を読んだり、会話したり、趣味の活動ができる場所です。子供たちの学習スペースも設置しました。

25年2月に完成した、南三陸町オーストラリア友好学習館(愛称: コアラ館)は、図書館と学習室、交流室があり、1万冊の蔵書をそろえ、調べ物や、情報収集、子供たちの学習室もあり、仮設住宅で読書、学習環境が厳しい中で、落ち着いてゆっくりと読書することができ、憩いのスペースとして子供から老人までくつろげる場所になりました。

南三陸町図書館の概要



*蔵書冊数/児童書 約3,000冊 一般書 約7,000冊
*開館時間/午前9時~午後5時
*休 館 日/年末年始 その他教育長が認めた日
住 所/〒986-0725 本吉郡南三陸町志津川字沼田56
電 話/0226-46-2670 FAX/0226-46-5155
PRポイント: 年末年始以外は休まず開館しております。